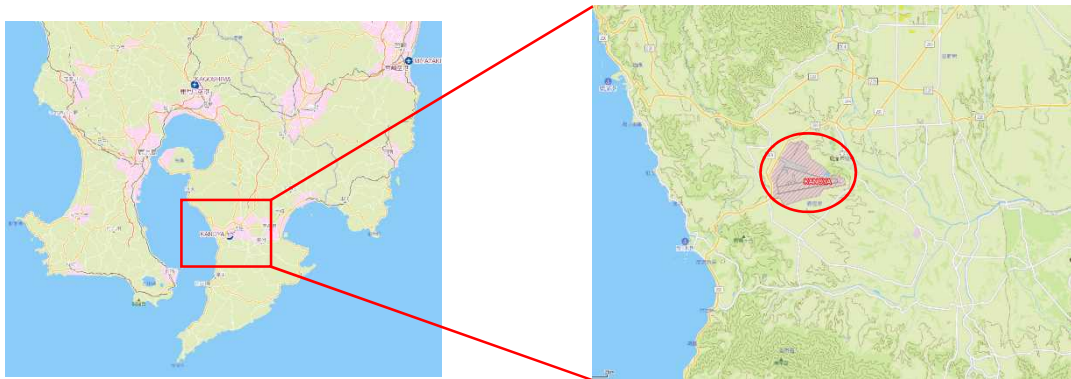


令和 7 年 8 月
防 衛 省

海上自衛隊鹿屋航空基地に関する 令和 8 年度概算要求（施設整備）

【施設整備】

- 鹿屋航空基地においては、滞空型UAV（シーガーディアン）を格納・整備するための整備格納庫の整備、老朽した火薬庫の整備、鹿屋航空基地に隣接する用地の取得を予定しています。
- 令和 8 年度概算要求においては、滞空型UAV（シーガーディアン）の整備格納庫の設計、既存施設の移設・撤去工事、火薬庫改修工事及び鹿屋航空基地に隣接する用地の取得など、鹿屋航空基地における施設整備に係る経費として全体で約 1 1 1 億円を計上しています。



鹿屋航空基地

滞空型 U A V（シーガーディアン）の 鹿屋航空基地への配備について

- 防衛力整備計画において、広域での洋上監視能力を強化するため、滞空型無人機（U A V）を整備することとしており、令和 6 年 1 1 月に MQ-9 B（シーガーディアン）を導入機種として選定しました。
- 配備先については、鹿屋航空基地・八戸航空基地とさせていただきたいと考えており、令和 1 0 年度から海上自衛隊による運用を開始させていただきたく、そのための準備を行うため、令和 9 年度から鹿屋航空基地において民間企業による飛行を開始したい考えです。

滞空型UAV(シーガーディアン)の 鹿屋航空基地への配備について

防 衛 省
令 和 7 年 8 月

背景

- **防衛力整備計画において**、広域での洋上監視能力を強化するとともに海上優勢の確保や人的資源の損耗を低減させるため、**滞空型無人機（UAV）を整備することとしています**。あわせて、滞空型UAVを取得することに伴い、P-1の取得機数を見直しています。
- 滞空型UAVの導入にあたっては、令和5年5月から令和6年9月にかけて、無操縦者航空機の任務への適合性等を確認するため、**八戸航空基地及び鹿屋航空基地において、シーガーディアンを用いた試験的運用**を行いました。
- 試験的運用で得られた知見も踏まえて、令和6年11月に滞空型UAVとしてシーガーディアンを導入機種に選定し、令和7年度予算に機体2機等の取得関連経費を計上しています。今後も各年度の予算要求を通じ、計23機を取得する予定です。



滞空型UAV（シーガーディアン）のイメージ

配備の概要

【必要性】

周辺国が東シナ海を中心に、我が国周辺海空域における活動を拡大・活発化させていることを踏まえ、洋上監視能力を早期に強化する必要

【配備先】

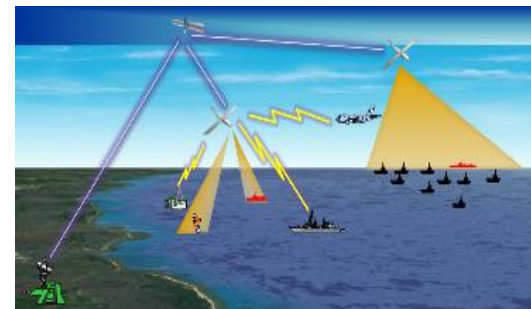
- 以下にお示した考え方に基づき海上自衛隊**鹿屋航空基地・八戸航空基地**にさせていただきたい
- 鹿屋航空基地から配備を進め、最終的には各基地に約10機ずつ配備させていただきたい

【配備先の考え方】

- 滞空型UAVが固定翼哨戒機の任務を一部代替する機体であることを踏まえ、**既に海自固定翼哨戒機が配備されている航空基地であること**
- 我が国の**広大な周辺海域の警戒監視に万全を期すことができること**

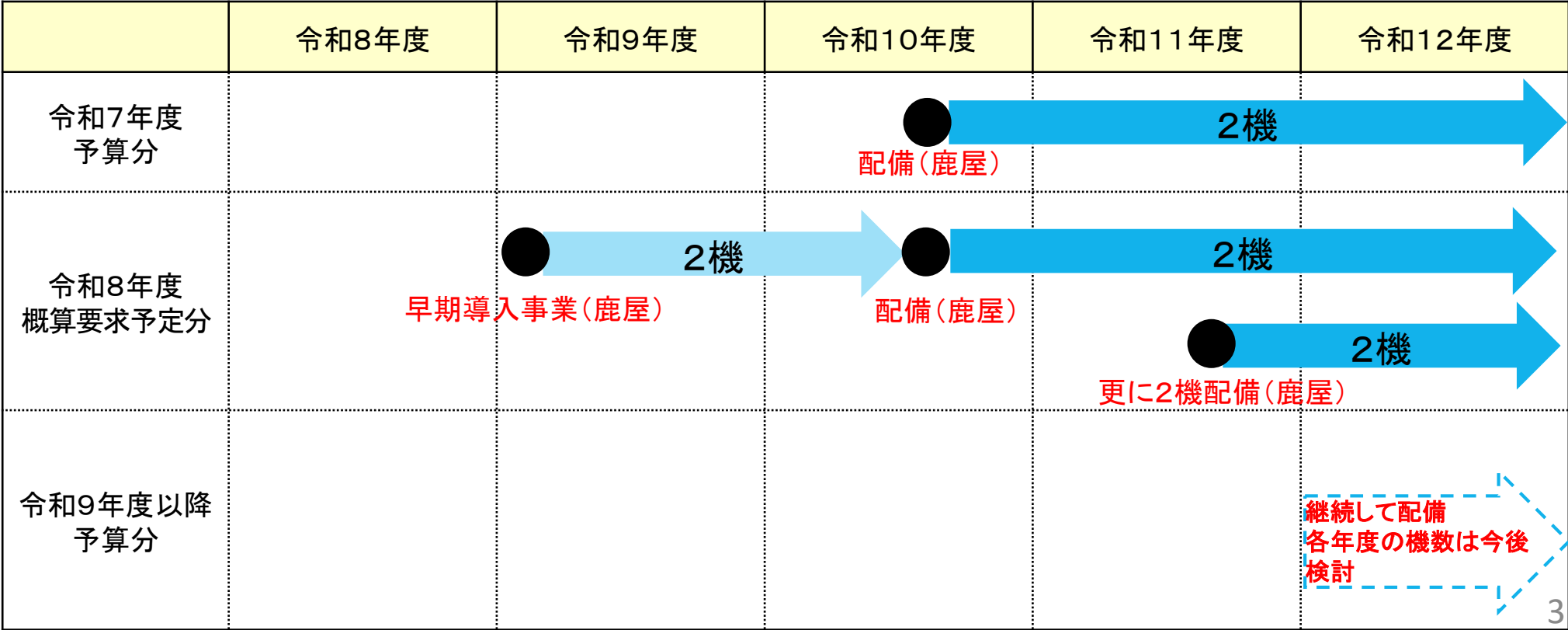
【配備時期】

- 鹿屋航空基地において、**令和9年度から運用開始に向けた準備を実施**
- 鹿屋航空基地において、**令和10年度から海上自衛隊による運用開始**
- 八戸航空基地への配備時期は取得状況等を踏まえて今後決定



運用イメージ

- 令和10年度の海上自衛隊による運用開始に先立ち、令和9年度から、2機を鹿屋航空基地に展開して、民間企業に機体を飛行させ、滞空型UAV（シーガーディアン）を用いた警戒監視要領の確立等、海上自衛隊による運用開始に向けて必要な準備を行いたい考えです。
- 令和10年度には、さらに2機を鹿屋航空基地に配備し、合計4機で海上自衛隊による運用を開始する予定です。
- これらの機体は車両により搬入予定です。
- 併せて、滞空型UAV（シーガーディアン）に必要な施設整備を進めるため、令和8年度に格納庫の調査設計業務を行います。



安全対策

- 安全性を有する機種を選定しております。
（製造国による安全性の承認・自動衝突防止装置の装備・操縦に必要な衛星通信に関しての、バックアップ回線の保有等）
- 定められた整備作業や飛行前点検を厳格に行います。
- 気象の状況等による各種飛行制限を厳守します。
- 武器や弾薬を搭載する計画はありません。
- 民間業者による運航時は、常に自衛隊員が監督します。
- 緊急事態発生時には自治体等へ速やかに報告します。

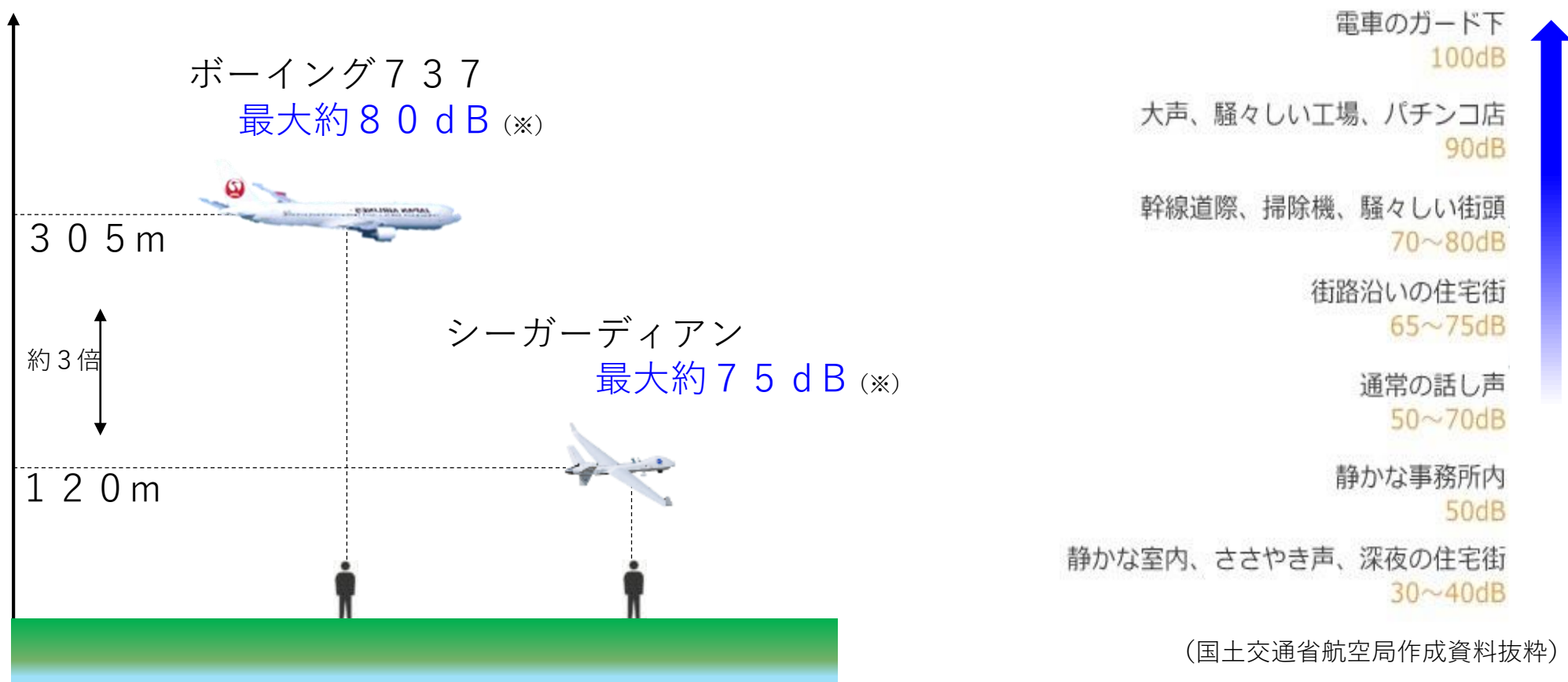
人的体制

- 令和10年度の鹿屋航空基地配備時点において、滞空型U A V（シーガーディアン）関連隊員は、既存の航空部隊等の隊員を充てる計画であり、配備に伴う人員の増減はないものと見込んでおります。

飛行回数・場周経路

- 滞空型U A V（シーガーディアン）は、現在有人の固定翼哨戒機が実施している警戒監視任務の一部を代替するため、**警戒監視任務に従事する固定翼哨戒機並みの飛行回数・離着陸回数**を見込んでいます。
- 滞空型U A V（シーガーディアン）の場周経路は、当該基地に所在する他の航空機と同一のものとします。

- 滞空型UAVによる騒音は、一般的に有人航空機より小さいです。
- 離着陸時に陸上を飛行する際は、可能な限り住宅地の直上を避ける等、**騒音に配慮した飛行ルートを選定**します。
- 離着陸以外では、陸上における低空飛行は実施しません。



機 種	MQ-9B シーガーディアン
製造企業	ジェネラル・アトミックス・エアロノティカル・システムズ社
外観イメージ	
全長×全幅×全高	約11m×約24m×約4m
機体重量	約6,100kg
航続距離	約4,900km
最大巡航速度	時速約370km
最大高度	約40,000ft(12,192m)
主な搭載機器	○ パイロットカメラ ○ 海洋監視レーダー ○ 光学・赤外線センサー ○ 通信装置 ○ 各種安全装置

RQ-4B (グローバルホーク)



MQ-9



MQ-9 B



機種名	RQ-4B (グローバルホーク)	MQ-9	MQ-9 B
全幅	39.90m	20.12m	24.10m
全長	14.50m	10.97m	11.40m
全高	4.70m	3.81m	3.70m
備考	資料源 : Jane's Unmanned Aerial Vehicles and Targets Issue37 米空軍FACTSHEET、General Atomics Aeronautical System社パンフレット、 Northrop Grumman社パンフレット 等		資料源 : ジェネラル・アトミクス社

